

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岡山市立浮田小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒709-0621

岡山県岡山市東区沼1725

E-mail [ukitas@city-okayama.ed.jp/~ukitas/](mailto:ukitas@city-okayama.ed.jp/~ukitas/)

Website <http://www.city-okayama.ed.jp/~ukitas/>

幼児児童生徒数 男子 90名 女子 100名 合計 190名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

※チェック事項1-1、2-1に対応

本当校は、「心豊かで、自ら考え学び、正しく判断し実行する子どもを育成すること。」を教育目標として、学校教育を行ってきた。その中で、ESDの活動を「人との交流プロジェクト」（下学年）「浮田の歴史探検プロジェクト」（上学年）と設定し、実践を通して「人、自然、社会に関心や興味を持って関わり、自分の課題を見つけて、主体的に判断し、よりよく問題を追及する力を育てるとともに、自分の生活や地域等に生かす力の育成すること」を目標とした。

「工夫する子ども」「ま心のある子ども」「たくましい子ども」をめざす子ども像として、具体的に以下のような活動を行ってきた。

#### 【人との交流プロジェクト】

<1年生>昔遊びにチャレンジしよう 11月～12月

生活科の学習で竹馬やこま回し、あやとり、けん玉などの昔遊びにチャレンジした。初めて昔遊びをする児童が多く、昔遊びの名人である地域のお年寄りの話を熱心に聞いていた。グループごとに遊び方や、上手になるコツなどを丁寧に教えてもらい、新しい遊びを知り工夫することで、児童にはたくさんの学びがあった。当日教えていただいた方々に、感謝の気持ちを言葉で伝え、後日嬉しかった気持ちや感謝の気持ちを手紙に書いて、読んでいただけるようにもした。

また、教えていただいた遊びを他の人にも伝えたい気持ちから、隣接する幼稚園に行き園児たちに学んだ遊びやお年寄りに教えていただいたことを伝えることができた。

<2年>2年生祭りをしよう 1月～2月

学校行事である浮田フェスティバルで上学年の作ったコーナーで遊んだ経験を生かして、招待した人たちに楽しんでもらうことをめあてに、2年生祭りを行った。今年度は、1年生だけでなく、幼稚園児も招待し、交流の対象を広げた。体育館の中に9つのコーナーを作って取り組み、誰でも楽しめるように、ルールや方法を工夫したコーナーが多く、相手の立場を考える学習となった。

<3年>浮田の自慢をしよう 4～7月

学区でぶどうを栽培している農家の人に協力していただいて、ぶどう畑の見学を行った。1回目の見学では、ビニールハウスのぶどうの木を実際に見て美味しいぶどうを作るための工夫や努力などを学んだ。2回目の見学では、選果場の見学をしながら、収穫や出荷についての話を聞き、ぶどうを通して、浮田と各地域がつながっていることを学ぶことができた。学んだことを壁新聞にまとめたり、浮田のぶどうのよさをPRするポスターを作成したりして、地域の人とのつながりや地域が昔から行っている産業のすばらしさについて学ぶことができた。

<4年>ともに生きる 9～11月

身近な生活用品から、目や耳の不自由な人が生活しやすいようにいろいろな工夫がしてあることを知ったり、点字体験をしたりして体の不自由な人についての理解を進めていった。そして、学区にある福祉施設を訪問し、リコーダー奏や歌を披露したり、クイズやクリスマスツリーの飾り作りで高齢者の方と交流したりすることで自分たちに何ができるか、何を大切にしていかなければならないかを考えることができた。学んだことを壁新聞にまとめ、他の学年の友達に発信することができた。

<5年>お米作りを体験しよう 6月～1月

地域の方から指導を受けて、浮田小学習田で、農作業体験をした。今年度は、昔の農具である足踏み水車や唐箕や足踏み脱穀機を使う体験を新たに行った。昔と現在の農作業の仕方を比較しながら、先人の知恵のすばらしさに気付くことができた。「米」をテーマにした1年を通じた学習で、米作りの難しさや楽しさを知ると同時に、日本の米作りについて考えることができた。また、収穫した米をバザーで販売したり、学習したことを新聞にまとめて掲示したり、学習発表会で保護者に向けて発表したりした。

【浮田の歴史探検プロジェクト】

<6年>浮田歴史探検隊 4月～11月

学区の貝塚や古墳、亀山城跡を実際に見学することで、浮田学区には様々な史跡があり、たくさんの先人が活躍した地域であることに気付くことができた。そして、地域の方から浮田学区で発見された江戸時代の儉約令の立て札を見せていただき、社会科の学習とつなげて学ぶことができた。また、亀山城跡保存会の方の指導を受けて、宇喜多氏の活躍について調べたり、亀山城跡の清掃活動をしたりするなど、地域の歴史的な価値に気づき、地域の方とのつながりを大切に学習活動を展開することができた。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(歴史学習, 地域学習, 地域交流)		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・各学年を中心とした指導とサポート体制を構築する。
- ・学年と総合的な学習部会での実践と情報の交流を行う。
- ・担任以外の教職員による支援体制を確立する。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESDプロジェクト年間計画に従って、総合的な学習の時間や生活科を中心に学習する。これまで新聞にまとめて掲示して終わっていた活動を直接交流する活動に変えたり、交流する対象を広げたりするなど、積極的な交流活動を行う。また、学区にある古墳や施設を見学したり、地域の方に講師となって話をしていただいたりと、子どもたちと地域とをつなげる活動を単元に位置付け、学習を進める。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

・ **内部評価**（個々の児童の活動、発言等の観察的評価）

校内での壁新聞や、パソコンやプロジェクターを使っでのプレゼンテーションなどの成果物による評価。

・ **外部評価**

地域の方からの評価は取りにくいところはあるが、概ね地域の方から良い評価を頂いている。

学校運営委員会等、地域の方が出席される会での発言による直接的評価

・ **成果と課題**

成果としては地域への郷土愛が育ち、自分が地域の内ですべて育っていることへの意識が高まった。そして、郷土の良さを持続させていこうという気持ちが育った。課題としては、自らの課題を解決していく学習となりにくい点である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

発信方法は、学校のホームページ、新聞記事等によるものである。  
効果としては、多くの方に知ってもらったことや、地域の方が喜んでくれたこと。さらには、児童にとっても、活動や地域に対する誇りが生まれ、成長したように思われる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

・ 児童は、地域への愛着が生まれ郷土愛が育った。  
・ 学校としては、この活動をカリキュラムマネジメントの一部として捉え、学校教育を進めていく上での大きな原動力とすることができた。  
・ 地域の方にとっても、母校の子どもたちが地域について学んでくれることに喜びを感じ活力となった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

・ 人、自然、社会に関心や興味をもって関わり、自分の課題を見つけて、主体的に判断し、よりよく問題を追及する力を育てるとともに、自分の生活や地域等に生かす力をさらに養う。  
・ 体験活動を通して自分や友だちの良さを知り、共に高め合いながら望ましい人間関係を育てる。  
・ 平成 29 年度までの活動を充実させ、学校のカリキュラムとして、より成果となるものにマネジメントしていき、他教科との関連を図っていきたい。